被災地方言会話集

ー　宮 城 県 仙 台 市　ー

＜自由会話＞

自由会話の概要

収録地点　　宮城県仙台市

収録日時　　2012（平成 24）年 7 月 13 日

収録場所　　宮城県仙台市若林区新井　七郷市民センター会議室

話題　　【震災のときのこと】

話者

A	男	1937（昭和 12）年	（収録時 75 歳）	［Bの友人］
B	女	1943（昭和 18）年	（収録時 69 歳）	［Aの友人］

話者出身地

A　仙台市若林区荒井（アライ）

B　仙台市若林区荒井（アライ）

【震災のときのこと】

話し手

A　男　1937（昭和 12）年　（収録時 75 歳）
B　女　1943（昭和 18）年　（収録時 69 歳）

001Ａ：オレワー、アノー　フツー、アノ　ツナミンド、ア　ツナミッチャネ、
私は、　あの　普通、　あの　津波のとき、あ　津波じゃない、

ジシンドギワネ、　（Ｂ　ンー）トゴヤニ　イッテタンダ。　（Ｂ　フーン）
地震[の]ときはね、（Ｂ　うん）床屋に　行っていたんだ。（Ｂ　ふーん）

ンー。デー　トゴヤニ　イッテ、ヤ　エ　ンジャ　アノー　ハサミ
うん。それで　床屋に　行って、×　×　じゃあ　あの　はさみ[を]

イレルネー　ツッテ　パチパチシタラ　ガ　ガラーット　キテー。（Ｂ　ンー）
入れるね　と言って　ぱちぱちしたら　×　ガラーっと　きて。　（Ｂ　うん）

ンー　シテー　アー　コリャー　ジシンダー　ツーノデ、　ン。ンダラ　ア
うん　そして　ああ　これは　地震だ　というので、×。そしたら　×

アダマ　スコシー　アノー（Ｂ　アー　ハンブン　カッテ）カッタダゲデー｛笑｝
頭[を]　少し　あの　（Ｂ　ああ　半分　刈って）刈っただけで　｛笑｝

エー　ウジサ　カエッテキタ　ッテユーナ　（Ｂ　ンーー）カンジナノネ。
えー　家に　帰ってきた　っていうような（Ｂ　うーん）感じなのね。

002Ｂ：ワ　ワ　ワタシワネー、チョード　アノー　センキョジムショ
×　×　私はね、　ちょうど　あの　選挙事務所[を]

テツダッテテネ。（Ａ　アー）ジムショ　ユレテデ　トニカク　ジムショカラ
手伝っていてね。（Ａ　ああ）事務所[が]　揺れていて　とにかく　事務所から

デルニモ　ナニモ　デキナイグライ　ユレテ。アノー　イリグチカラ　ホーリ
出るにも　なにも　できないくらい　揺れて。あの　入口から　×××

ホーリナゲラレタミタイン　ナッテ、ソゴデ　ジベタニ　スワリコンジャッタラ、
放り投げられたみたいに　なって、そこで　地べたに　座りこんじゃったら、

マエノ　ウチガネ、アノー　クラガ　ナミウッテ｛笑｝（A　アー）アト　オ
前の　家がね、　あの　蔵が　波打って　｛笑｝（A　ああ）あと　×

アノ　オモヤノ　ホーワ　カワラガ　モー　スゴイ　ナミウッテマシタヨー。｛笑｝
あの　母屋の　方は　瓦が　もう　すごい　波打っていましたよ。　｛笑｝

ンーー。（A　デネー）デ　トニカク　オサマッテカラ　モー　ヒ　ヒトノ
うーん。（A　だねー）それで　とにかく　おさまってから　もう　×　人の

コト　カマッテ　ランナイカラ、　モー　ジテンシャデ　ウチニ
こと[は]　構って　いられないから、もう　自転車で　家に

カエッテキマシタ。｛笑｝
帰ってきました。　｛笑｝

003A：ンーー　ダガラ　オレダジモー　ウチニー、ドーナノガナード　オモッテネ、
うーん　だから　私たちも　家に、　どうなのかなと　思ってね、

ウ　ウジサ　カエッタラ、コンド　アノー　ヘリャクップターデ
×　家に　帰ったら、　今度[は]　あの　ヘリコプターで

（B　ンー　ンー）アノー　ナンカ　タカ　タカイ　トコロニー、
（B　うん　うん）あの　なんか　××　高い　ところに、

タカイ　トコロニーッテ　（B　ンーー）アノー　マワッテンデスヨ。
高い　ところにと[言って]（B　うーん）あの　回っているんですよ。

（B　ンーー）ンデー　オレダジモ　ナー　ナーニナノガナード　オモッタラー、
（B　うーん）それで　私達も　××　何なのかなあと　思ったら、

ツナミガ　クル、オッキナ　ツナミガ　クルッツワゲダ。　（B　ンー）
津波が　来る、大きな　津波が　来るっというわけだ。（B　うん）

ンデー　マー　ウ　タカイ　ドゴロッツッテモ　　ドゴー、ンーー　ネー。
それで　まあ　×　高い　　ところって言っても　どこに、うーん　ねぇ。

004Ｂ：ットニ　コノヘンネー、（Ａ　マズ）タンボシカ　ナイノニ。｛笑｝
本当に　この辺ねえ、　（Ａ　ます）田んぼしか　ないのに。｛笑｝

005Ａ：ツナミッツッタッテ、タガイ　ドゴロッテ、コゴマデ　ツナミ
津波って言ったって、高い　　所って、　　ここまで　津波［が］

クンノガナー、ナンテ　オモッテネ。ンデモ　タガイ　ドゴロ、タガイ
来るのかなぁ、なんて　思ってね。　でも　　高い　　ところ、高い

ドゴロッテ　ユーガラー、アノー　ンナー　ムガイノー　マンション。（Ｂ　ンー
ところって　言うから、　あの　　×××　向かいの　　マンション。（Ｂ　うん

ンー）アソゴニー　マー　ミンナデ　ガダガダーット　アガッテッテー（Ｂ　ンー
うん）あそこに　　まあ　みんなで　がたがたと　　上がっていって（Ｂ　うん

ンー）エー　タイキシッタワゲサ。（Ｂ　フーン）ンー。デー　　ソノママ
うん）えー　待機していたわけさ。（Ｂ　ふーん）うん。それで　そのまま

コンド　ミンナデ　アノー　ショーガックーノ　コードーカ゜、タイグカンニ
今度は　皆で　　あの　　小学校の　　講堂か、　　体育館に

（Ｂ　ンー）ミンナ　アズマレーッテユゴドデ（Ｂ　ンー）ンー。ダガラ　アノー
（Ｂ　うん）皆　　集まれということで　　（Ｂ　うん）んー。だから　あの

ショーガッコーーニ　ミンナ　チタンダヨネ。（Ｂ　ンー）デ　　ソノ
小学校に　　皆　　来たんだよね。（Ｂ　うん）それで　その

シトバン　ソノ　タイグカンサ。（Ｂ　アー　ソー）ンー。
一晩　　その　体育館に。　　（Ｂ　あー　そう）うん。

006Ｂ：ワ　ワ　ワタシワ　ジテンシャデ　ウジ　　カエッタラ、アー　オトーサンカ゜
×　×　私は　　自転車で　　家［に］　帰ったら、　あー　お父さんが

仙台市 自由会話

チョード　デカケルトコデ、ンー（A　ンーー）アノー｛笑｝ア　カギ
ちょうど　でかけるとこで、んー（A　うーん）あの　｛笑｝×　鍵

カケヨート　オモッタラ　キタンダッテ。ソレデ　ソコ（A　ウーーン）
かけようと　思ったら　来たんだって。それで　そこ（A　うーーん）

ウ　ンダカラ　イタカラ　ヨカッタケドネ。（A　ウーーン）トニカク
×　だから　[家に]いたから　良かったけどね。（A　うーーん）とにかく

ウチニ　ハイルモ　ナニモ、ウチンナカ　メッチャクチャデネ。（B　ンダネー
家に　入るも　なにも、家の中[が]　めっちゃくちゃでね。（B　そうだね

アノヒワ）ウーーン。ホントニ　タイ、アト　ダカラ　ソノヒワネ、チョット
あの日は）うーーん。本当に　××、あと　だから　その日はね、ちょっと

ジッカ　ワタシ　ソバダカラ（A　ンー）ンー　デ　アノー　ジッカノ
実家[が]　私[は]　そばだから（A　うん）うん　で　あの　実家の

ハウスニネ、ミンナントコ　ヒナンサセル　ウ　ルコト　ノ　ニシテネ。
ハウスにね、皆のこと　避難させる　×　×こと　×　にしてね。

（A　ンー）アノー　ホラー　エ　アノ　シャクヤモ　アルモンダカラ、マズ
（A　うん）あの　ほら　×　あの　借家も　あるものだから、まず

ソノヒトタチオ　マモンナキャナイッツッテ。　（A　ンーー　ンー　ンー）
その人たちを　守らなければいけないと言って。（A　うーん　うん　うん）

ンー。ソレデ　トニカク、ソシテ　ソーヤッタラ　ゴキンジョサンモ
うん。それで　とにかく、そして　そうやったら　ご近所さんも

ミンーナ　キテネ。｛笑｝（A　アー　ンジャ　ネ　ソ）ヨンジューナンニン
皆　来てね。｛笑｝（A　あー　それじゃあ　ね　×）四十何人

ハイッタノ。
入ったの。

007Ａ：アー　ンジャー　　ソ（Ｂ　ンー）　ソレワ　イガッタナ。アノヒ
あー　それじゃあ　×（Ｂ　うーん）それは　良かったね。あの日[は]

サムガッタガラネー。
寒かったからねー。

008Ｂ：サムガッタガラ。ソシテ　ミンナ　ストーブ　　モチヨッタリネ。
寒かったから。　そして　皆　　ストーブ[を]　持ち寄ったりね。

（Ａ　ンー　ンー）アノ　ブルーシート　　シーテ。（Ａ　ンー）
（Ａ　うん　うん）あの　ブルーシート[を]　敷いて。（Ａ　うーん）

ンーー。　モーフ　　モッタリ。{笑}ンーー。ソーヤッテネ、トニカク
うーん。　毛布[を]　持ったり。{笑}うーん。そうやってね、とにかく

アノー　ス　ミンナントコ　カマッテタラネ、ワ　ワタシタチ　ハイルヨチ
あの　　×　皆のこと　　構ってたらね、　×　私たち[が]　入る余地

ナクナッテネ。{笑}ケッキョクワ　アノ　ジブンノウチデネ、（Ａ　ンーー）
無くなってね。{笑}結局は　　あの　自分の家でね、　　（Ａ　うーん）

ンー　ネタヨーナ　ジョータイダッタノ。ンー。（Ａ　アー　＿＿＿）
うん　寝たような　状態だったの。　　うん。（Ａ　あー　＿＿＿）

ソシテ　ソノツギノヒカラ　コンドネ、アノー　ヤッパリ　ノーカダカラネ、
そして　その次の日から　　今度ね、　あの　　やっぱり　農家だからね、

ムカシカラ　ソーユートキワ　タキダシ　シナキャナイッテユー　　（Ａ　アーー）
昔から　　そういうときは　炊き出し　しなければならないという（Ａ　あー）

アタマガ　アルンデスネー。（Ａ　アーーー）オン　オネーサンガ（Ａ　アーー）
頭が　　あるんですね。　（Ａ　あー）　　××　お姉さんが　（Ａ　あー）

{笑}ジッカノ。ダカラ　スルカラッテ　ユーノー。（Ａ　ンーー）{笑}
{笑}実家の。　だから　するからって　言うの。　（Ａ　うーん）{笑}

009Ａ：ナーンカ　タベル　タベルッツーガ、クーゴド　アンマリ（Ｂ　アー）
なんか　食べる　食べるというか、食うこと　あんまり（Ｂ　アー）

カ　カンガエナガッタンダワネ。
×　考えなかったんだわね。

010Ｂ：ダ　アノ　トニカク　ジシン　オサマッタラ　アトワ　ナントモナイスネ。
×　あの　とにかく　地震[が]　おさまったら　後は　なんともないしね。

ウチノナカワ　メチャクチャダケド、（Ａ　アーー　ンー　ンー　ソー　ソー）
家の中は　めちゃくちゃだけど、（Ａ　あーー　うん　うん　そう　そう）

デンキモ　コナイケド。デモ　ソコワ　ホラ、ノーカダノ　バッカリ　ダカラ、
電気も　来ないけど。でも　そこは　ほら、農家とか　ばっかり　だから、

（Ａ　ン）トラクタトカ　ソーユーノカラ　デンキ、　（Ａ　エー　アー）アノ
（Ａ　ん）トラクターとか　そういうのから　電気[を]、（Ａ　えー　あー）あの

マサカ　ソン　ナンカ　ア　アトカラ　アンナ　ガソリンブソクナル
まさか　××　なんか　×　あとから　あんな　ガソリン不足になるなんて

ナンツーノ　ワカンナイモンネー。｛笑｝ンネ　アノ　ソヤッテネ、
いうことは　わからないものね。　｛笑｝××　あの　そうやってね、

ジドーシャ　ナラベテ　テラシタリネ。（Ａ　アー）ンー。
自動車[を]　並べて　照らしたりね。（Ａ　あー）うん。

011Ａ：ンデ　ワリト　イエ　アノ（Ｂ　アーー　ウーー　ソー　ソー）
それでは　割と　××　あの（Ｂ　あー　うー　そう　そう）

イーカンジデ｛笑｝（Ｂ　オーン）ネー。
いい感じで　｛笑｝（Ｂ　うーん）ねえ。

012Ｂ：アノ　ミンナデ　ア　ソシテ　ミンナ　オーキ　ウチノ　ヒト　オーイカラ
あの　みんなで　×　そして　皆　大きい　家の　人　多いから

ストーブモ　アノ（A　アー）オッキノ　モッテル　　ヒトモ　イテネ。
ストーブも　あの（A　あー）大きいの　持っている　人も　　いてね。

ヨンダイク゜ライ。（A　アーーー）タダノ　セキユストーブネ。
４台ぐらい。　　（A　あーーー）ただの　石油ストーブね。

ンーー　ミンナ　ワリト　チャント　シテマシタヨ。　ソシタラ　ツ
うーん　皆　　割と　　ちゃんと　していましたよ。そしたら　×

アーサン　ナッタラ　アノ　タキダシスルッテンデ、　　スイドーワネー、
朝に　　なったら　あの　炊き出しするって言うので、水道はね、

ンーー　キテタンデスヨネ。
うーん　きていたんですよね。

013Ａ：アーー（B　ンーー）スイドー　トマンナガッタンダヨネ。
あーー（B　うーん）水道［は］　止まらなかったんだよね。

014Ｂ：トマンナガッタ。（A　ウーン）ンー。（A　イヤー　マー）ソレデ　アト
止まらなかった。（A　うーん）うん。（A　いやあ　まあ）それで　あと

スイドー　トマンナイシ、プロパンダカラ、｛笑｝ノーカダカラ。
水道［は］　止まらないし、プロパンだから、｛笑｝農家だから。

（A　アー　ヨガッタネー）ネー　ソレデネ（A　ウーーン）アノ　オーキー
（A　あー　良かったねー）ねー　それでね（A　うーーん）あの　大きい

カマモ　アルシ　オナベモ　アルシ（A　ウーーーン）コメモ　ヤサイモ
釜も　　あるし　お鍋も　　あるし（A　うーーーん）米も　　野菜も

アルシッテカンジデネ。モー（A　イヤー）シゴニチ　　ネ、ソーヤッテ
あるしって感じでね。　もう（A　いやー）4,5日　　ね、そうやって

シン　マイニチ　タキダシシタノ。｛笑｝
××　毎日　　炊き出ししたの。｛笑｝

015A：ソノヒンワ　ノーカノ　ヒトダジワ　ヨガッタヨネ。（B　ネー　ンーー）
そのへんは　農家の　人たちは　良かったよね。（B　ねー　うーん）

ンー　ケッコー。デー　オレタジワ（B　ンー）モー　タダー　ク　アノー
うん　結構。　それで　私たちは　（B　うん）もう　ただ　×　あの

タイグカンサ　ネー（B　ンー）ナーンニモ、ナニモ　モダネデ
体育館に　ね　（B　うん）何も、　何も　持たないで

イッタヨネー。（B　ンー）ウジダゲデネガナ。　（B　ソーダヨネ）　ナニモ
行ったよね。　（B　うん）うちだけではないかな。（B　そうだよね）　何も

モタネデ　イッテル。　{笑}シタラ　ミンナ　チャント　ネ、
持たないで　行ってる[のは]。{笑}そしたら　皆　ちゃんと　ね、

（B　ンーー）アノ　ダイジナモノ　モッタリ、（B　ンー　ンー　ンー　ンー）
（B　うん）　あの　大事なもの　持ったり、（B　うん　うん　うん　うん）

ソシテ　イダンダヨネ。（B　ン　ネー）ンーー　ソ　ソンデ　サムイー、
そうして　いたんだよね。（B　ん　ねー）うーん　×　それで　寒い、

サムイッツーノデ（B　ンー）ウジサ　モドッテキテー（B　ンー）アノー
寒いっていうので（B　うん）家に　戻ってきて　（B　うん）あの

モーフ　モッテッタリ　（B　ンーー　ンー　ンー）エ　シタノネ。シタラ
毛布[を]　持っていったり（B　うーん　うん　うん）×　したのね。そしたら

ナーンカー　イー　ロクサイグライカ゜、（B　ンー）ゴロクサイノ
なんか　××　6歳くらいか、　（B　うん）5,6歳の

オンナノコカ゜、モー　ゴロクサイ　ナンナイナ。（B　ンー）
女の子が、　もう　5,6歳[にも]　ならないな。（B　うん）

サンヨンサイガネ。ソー　モー　オシッコ　モラシテワサ、（B　ンーー
3,4歳かな。　そう　もう　おしっこ[を]　もらしてはさ、（B　うーん

ンー　ンー）サム　サムガッテンダサ。　（B　ネー）ダー　ソ　ソレオ
うん　うん）××　寒がっているんだよね。（B　ねー）だから　×　それを

カゲサセデ。（B　ンー）エー　トニカグ　ンーー　コッチワ　サムガッタネ。
かけさせて。（B　うん）えー　とにかく　×××　こっちは　寒かったね。

（B　ウ　ンーー）｛笑｝ホーントニ。
（B　×　うーん）｛笑｝本当に。

016B：ア　アト　デンキガ　キエッタカラ、　ソノブン　ラジオ　キクナンテ
あ　あと　電気が　消えていたから、その分　ラジオ[を]　聞くなんて

キ、ヨユーモ　ナカッタネ。
気、余裕も　無かったね。

017A：ア　ソ　（B　ソー）ラージオ　モッテッタンダ。　（B　アン）ソシタラネ
×　そう（B　そう）ラジオ　持っていったんだ。（B　うん）そしたらね

018B：ソシテ　ホラ　タキショ　タキダシスンノニネ（A　ンー）ナニシロ
そして　ほら　××××　炊き出しするのにね（A　うん）なにしろ

スイジガカリニ　ナッテシマッタモンダカラ、｛笑｝モー　ソレガ　モエ
炊事係に　なってしまったものだから、｛笑｝もう　それが　もう

サンショグダスノ　タイヘンデシタヨ。マイ　マイショクネ。（A　アーーー）
三食出すの[が]　大変でしたよ。　××　毎食ね。　（A　あーーー）

ナーー　ゴ、ゴロクジュッコ（A　アーーー）ンー。
×××　5、50〜60個　（A　あーーー）うん。

019A：ンジャー　（B　ンー）ヨワッタナ。
それじゃあ（B　うん）弱ったな。

020B：アト　ホラ　オイッコガ　ナンカ　ショーボーニネ、デテタカラ　（A　アーー）
あと　ほら　甥っ子が　なんか　消防にね、　出ていたから（A　あー）

ソノヒトタチニモネ、マイニチ　ニジュッコグライズツ　ヤルトカネー。
その人たちにもね、　毎日　　20個くらいずつ　　やるとかね。

（A　ンーーー）ンー　ナンカー　ソンナ　キョーフカンヨリ　ソレガ
（A　んーーー）んー　なんか　　そんな　恐怖感より　　それが

イソガシクテ　タイヘンダッタ。｛笑｝
忙しくて　　大変だった。　　｛笑｝

021A：ンーー　ヤッパリ　ンジャ　　ノーカノシタジワ（B　ウーーン）ワリト
うーん　やっぱり　それじゃあ　農家の人たちは　（B　うーん）　割と

イガッタンダヨネ。（B　ウ　ンーー）ンー。
良かったんだよね。（B　×　うーん）うん。

022B：ソシテ　ソーユーノ　キーテテネ、　アノ　オヤサイ　　モラッタリネ。｛笑｝
そして　そういうの　聞いていてね、あの　お野菜[を]　貰ったりね。　｛笑｝

（A　アー）ア　ア　ンダカラ　ソ　アー　ホ　ナンカス　ココワ　アン　ンテ
（A　あー）×　×　だから　　×　あー　×　なんかさ　ここは　××　××

アノ　ショクジ　イクテ　イーネートカッテ（A　ンー　ンー　ンー）
あの　食事[が]　良くて　良いねとかって　（A　うん　うん　うん）

イワレテマシタヨ。　｛笑｝
言われていましたよ。｛笑｝

023A：ホントダネ。（B　ウーーン）ダガラー　ヤッパリ　アノ　ヨ　ヨールー
本当だね。　（B　うーーん）だから　　やっぱり　あの　×　夜

ハチジーコロー、ハチジコロガネ、（B　ンー）ラジオ　　キーデタラ、
8時頃、　　8時頃かね、　　（B　うん）ラジオ[を]　聞いていたら、

アノー　カ　アラハマカイガンニ（B　ンー）ニ　ニヒャグガラ
あの　　×　荒浜海岸に　　（B　うん）×　200から

サンビャグタイノ（B　ソー　ンー）イタイガー　アノー
300体の　　（B　そう　うん）遺体が　　あの

（B　ア　ソノヒニワ）アガッテル。　（B　ンー　ンー）ナー　ナーニ、
（B　あ　その日には）上がっている。（B　うん　うん）××　何、

コッチデワ　ミエナイガラネー。（B　ミエナイ　ソー　ソー　ソー）ソー
こっちでは　見えないからねー。（B　見えない　そうそうそう）　その

ナニガ　オギッテッカ　ゼンゼン
何が　起きているのか　全然

024B：ナンカ　ツナミ　キタッテ　イワレタコトモ（A　ンー）ナンカ
なんか　津波が　来たって　言われたことも（A　うん）なんか

シンジランナイカンジネ。（A　ワガンナグテ　ネ）イワレテモ。
信じられない感じね。　（A　分からなくて　ね）言われても。

025A：テレビモ　ミダワゲデナイシネ。　（B　ネ）ンダラー　デモ　ケータイデ
テレビも　見たわけではないしね。（B　ね）そしたら　でも　携帯［電話］で

ナンカ　アー　ドゴマデ　キテルードガッテ（B　ンーー）ネー　エー
なんか　あー　どこまで　来ているとかって（B　んー）　ねー　えー

ユッテル　シトダジモ　イダッタンダケドモー、（B　ンーー　ンー）
言っている　人たちも　いたんだけれども、　（B　うーん　うん）

タダ　ニヒャグガラ　サンビャグタイ、アノー　アガッテルヨーッテー
ただ　200から　300体、　あの　［遺体が］上がってるよって

（B　ンー）ユーノ　キーデネー、（B　ンー）イヤ　コレワ
（B　うん）いうの　聞いてね、　（B　うん）いや　これは

トンデモナイゴド　オギデンダナードワ　（B　ンー　ンー）オモッタヨネ。
とんでもないこと［が］　起きているんだなとは（B　うん　うん）思ったよね。

026Ｂ：ネ　ソー（Ａ　ンー）ソーゾーワシテモ　ドーシタッテ（Ａ　ンー）コー
ね　そう（Ａ　うん）想像はしても　どうしたって（Ａ　うん）こう

オモイウカベルノ、ネ。カミヤシキ[1]マデ　キテルンダッテ　ユーノ、
思い浮かべるの、　ね。神屋敷まで　来ているんだって　いうの、

（Ａ　ソー　ソー　ソー　ソー）アノー　キータケドモ。ナニ
（Ａ　そう　そう　そう　そう）あの　聞いたけども。何

ユッテンダロッテ　カンジダッタネ。
言っているんだろうって　感じだったね。

027Ａ：シテー　オラー　アノー　ラージオカーデ、アノー
そして　ほら　あの　ラジオカーで、　あの

ワカバヤシクヤクショマデー　アノー　ツナミカ゜キタッテ　ユッタンダヨネ。
若林区役所まで　あの　津波が来たって　言ったんだよね。

（Ｂ　ソー　ソー　ソー　ンーー　ンー　ンー　ンー）ホンデー　アノー　コ
（Ｂ　そう　そう　そう　うーん　うん　うん　うん）それで　あの　×

ドー　コ　ンデモ　クッチデ　ミデーバネー　ナニモ（Ｂ　ネー　ソー
××　×　それでも　こっちで　見てればね　何も　（Ｂ　ねー　そう

ソー　ソー）キテルー（Ｂ　ンーー）アレデモナイシー。ダガラー　ツギノヒ
そう　そう）来ている（Ｂ　うーん）あれでもないし。　だから　次の日

シンセージノシタジー、アノー　ウジノー　ニョーボーワ　ヤマテノホーダガラ
親戚の人たち、　あの　うちの　女房は　山の手の方だから

（Ｂ　ス　ンーー）カ　カワサキノ　ホーナノネ。（Ｂ　ンー）ダガラ　ソッカラ
（Ｂ　×　うーん）×　川崎の　方なのね。　（Ｂ　うん）だから　そこから

ミンナ　クルンダチャ。デンワワ　ツージナイベシー。（Ｂ　ソー　ソー）
皆　来るんだよ。　電話は　通じないだろうし。（Ｂ　そう　そう）

ンダガラー　ンー　クヤクショマデ　キタンデワー、（B　ソー）オラエモ
だから　　んー　区役所まで　　来たのでは、　（B　そう）私の家も

ネグナッテルワ、　（B　ンー　ンー）ソユーゴドデ　　オラー
無くなっているわ、（B　うん　うん）そういうことで　ほら

028Ｂ：ウチモネ、（A　ンー）ムスメガ　トーキョーニ　イルモンダカラ、
うちもね、（A　うん）娘が　　東京に　　いるものだから、

ニュースワネ、（A　ンー）リアルタイムデ　ミテルカラ、　モー　スゴイ　ソノ
ニュースはね、（A　うん）リアルタイムで　見ているから、もう　すごい　その

キョーフショー　ナッタミタイニ（A　ソー）ナッテ　ソレデ　コー、
恐怖症[に]　　なったみたいに（A　そう）なって　それで　こう、

シンインセーノネ、　　（A　エー）グアイワルクナッタンデスヨ。
心因性の[病気になって]ね、（A　えー）具合悪くなったんですよ。

ンテ　マダ　シッカリ　ナオッテナイカ。　{笑}ンデ　　シ　イーノ
××　まだ　しっかり　治っていないから。{笑}それで　×　×××

イッツデモ　ニモツ　　カカエテネー。{笑}ホントニ。（A　アー）アノー
いつでも　　荷物[を]　抱えてね。　　{笑}本当に。　（A　あー）あの

チョクセツ　ミテ　スグ　コレナイ　ヒトタチワ　スゴク
直接　　見て　すぐ　来れない　人たちは　　すごく

コワカッタミタイデネ。（A　ンダヨネ）　ワタシタチワ　ア　ダイジョブダカラ
怖かったみたいでね。（A　そうだよね）私たちは　　×　大丈夫だから

モーッテ　アノー　バッテリー　　モッタイナイカラ　デンワ　ヨゴサナクテ
もうって　あの　　バッテリー[が]　もったいないから　電話　　よこさなくて

イーカラッテノサ、　　ソレガ　コッチノ　ジョーホー　ワカンナイ、アノ
いいからって[言う]のに、それが　こっちの　情報[が]　　わからない、あの

キケナイカラ　スーコ゜ク（A　ソー　ソー　ソー）シンパイシテネー。
聞けないから　すごく　（A　そう　そう　そう）心配してね。

029A：ダー　デンワワー　トニカグー　アノ　ツナガラナイガラー（B　ンー　ンー）
だから　電話は　とにかく　あの　つながらないから　（B　うん　うん）

エー　コードー　コー　ミンナガ　キテミルドガ（B　ンーー）
えー　行動　こう　皆が　来てみるとか（B　うーん）

ソーユーゴド　ダッタンデネ。
そういうこと　だったんだよね。

宮城県仙台市方言会話集（自由会話）注記

〔1〕カミヤシキ

仙台市若林区荒井神屋敷のこと。仙台東部有料道路そばの海岸側。

宮城県仙台市方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者　武田　拓（仙台高等専門学校准教授）
坂喜　美佳（東北大学大学院文学研究科博士後期課程３年）
伊藤　友香（東北大学文学部３年）

文字化担当者　坂喜　美佳（東北大学大学院文学研究科博士後期課程３年）
伊藤　友香（東北大学文学部３年）